

優秀賞（全国枠） はなみさん （福島県 高校1年）

私は、福島県の双葉郡の富岡町という町に住んでいます。富岡町は、原発事故の被害を受け、2017年からやっと全域においてではないけれど、住めるようになった町です。そのため、今は様々な点においてゼロからの復興の最中です。私はまず、2030年までに富岡町に永住するつもり多くの人が、SDGsの17にあるように人々がパートナーシップをもって協力し合えるような、また、11であるように住み続けられる町を目指すことを理想としています。そして、2045年にはそのすべての人が目指す町になってほしいと思います。2030年の目標は、「誰も取り残さない。」、2045年の私の考える目標は、「誰もが自分で考え、全てにおいて水準以上、または水準とほとんど変わらない生活をしている。」です。具体的には、私が理想とする2045年の富岡町においては次の3つのことが実現しています。

1つ目は、人々の健康において、SDGsの3つの目標が実現されています。現在の富岡は、もともと過疎地域であることと、避難解除から数年しか経っていないこともあり、病院がないなど、医療の面で完全に行き届いていません。他の地域と同じレベルの医療を受けられるよう、重病を抱えるまたは定期的な通院を必要としている富岡町民の負担が軽減出来ないかと考えています。だからといって、医療体制が万全である大病院を富岡町に作る事が出来るとも思いません。そこで、2045年にできるのが小さな診療所です。お医者さんは男性と女性が一人ずついます。お医者さんは触診や問診だけを行います。その結果をパートナーとなるのはAIドクターに伝えます。そこから診断と薬の処方自動で行われます。手術が必要な時はロボット手術。大都市にいる外科医の先生が遠隔で操作します。

これにより、どんなに交通の便が悪い富岡町でも、大都市と代わりのない医療が受けられるようになります。

2 つ目は、SDGs の 4 の目標が達成され、子供達が充実した教育を受けることが出来ています。現在の富岡町の学力水準は他の地域に比べて低く、加えて、ピアノ教室やスポーツクラブなどの家庭や学校以外での教養習い事ありません。要因としては、これも避難解除から数年しか経っていないという事もありますが、もともと過疎地であることから教育における地域格差が大きな原因であると思います。十分な教育を受けられないことは、貧困の連鎖を生み出す最大の要因です。2045 年の富岡町においては、富岡の子供たちは他の地域の子供たちと同等のレベルの教育を受けられるようになっています。現在私の学校では、教育 NPO が常駐し、常に私たちの学習や心のケアなどのサポートをしてくれています。私の理想の 2045 年の富岡町ではこうした教育 NPO が全ての教育施設に常駐、またはネット回線につながっており、すべての子供達が質の高い教育を受けることが出来ます。また、地域の大人たちが NPO と一緒になり、放課後の学童保育にあたり質の高い体験型学習が行われています。

3 つ目は、SDGs の 9 が達成され、持続的な産業の基盤が確立しています。今までの富岡町は、町全体で原発産業に依存していたため、今はこれといった産業がありません。もはや原発は持続可能なのかどうか分かりません。そこで新しい再生可能エネルギーの一大発電設備をつくってみてはどうでしょうか。幸い原発の電気を送るのにつかわれていた、送電設備が事故後残されています。再生エネルギー中心とした産業基盤を作ることで、富岡は住み続けられる町になるでしょう。2045 年までには交通手段も充実しています。今のま

までは電車やバスも、個人で観光としてくる人にとっても十分とは言えません。2045年にはウーバーのように民間の人が車での送り迎えをし、そして自由に自転車が貸し出されます。そうすることによって、富岡訪れる人が増え、富岡と関わりを持つ人が持つ人が増えるでしょう。

こうして、2045年の富岡町では、町に一時的に住んでいる人も町を訪れた人も、富岡に関心を持ち、住み続けられる町への理想、方法を富岡に住んでいる人と一緒に考えるようになっていきます。そして、自分の地域だけでなく、他の地域、他の国に関心を持ち、同じように考えられることが地域と地域、国と国のパートナーシップにつながります。富岡がより良くなるとそれは他の地域や日本全体に波及するのです。